

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度に職員の大幅な異動があり、職員全員で事業所理念に沿った介護支援に取り組んでいるところである。	新年より「和の家」から「福わらい」とホームの名称を変更したが基本的な理念は継続しており、日々、実践に取り組んでいる。また、職員間で改称に伴い理念あるいはスローガンなど、ホームの目指す方向性を検討し直そうという意向もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の好意で借りている畑を事業所で耕作することで、畑を通じて、ご近所とのつながりがあり、ご近所様から農作物を頂いたり等の交流もすっかり日常的となっている。	区費を納め地区の一員となっており、地区の新年会に代表者が参加し関わりを深めるための良い顔合わせの機会としている。中学校の「愛郷Day」として独居の高齢者宅や施設を回り交流するイベントがあり、ホームにも10名ほどの生徒が来訪し、また、中学校の野球部員が冬の間の土・日曜日、9時～10時まで奉仕活動やゲームなどで交流し利用者も楽しみにしている。地区社協主催の日帰り旅行にも地域の人々とともに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校の事業所への訪問交流に加えて、本年度は特別授業として福祉・認知症について特別授業をさせていただくなどの啓発活動を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後の昼食会が定例となっており、会議構成員同士がホームや利用者になじみを持ちやすくなる形態が形づいているため、民生委員などの任期がある職種の方でも参加しやすい雰囲気を作っている。本年度は運営推進会議の在り方についてもご意見をいただいたこともあり、構成員、家族にとってより良い会議となるよう現在会議の運営方針について模索中である。	利用者家族、地区民生児童委員3名、地区社協会長、有識者、地域包括支援センター職員、市支所職員が参加し開催されている。特に、利用者家族全員に参加案内を出し、殆どの家族の参加を頂いている。時には利用者も参加し、基本的に奇数月の最終週の月曜日に開き、ホームの現状報告を行い意見を交換している。会議終了後利用者と一緒に食事をしながら利用者の様子を見ていただき、利用者と家族がふれあう機会も設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長野市介護保険課サービス担当には、運営上の報告、連絡、相談をし、長野市包括支援センターの担当者とは、地域の介護を取り巻く事情について連絡・連携を取っている。	1月のホームの改称について市担当者と相談をした。介護認定の更新については利用者を支所にお連れし手続きしたり、希望があれば申請を代行し、認定調査時には日頃の様子などの情報を提供している。住民自治協議会の福祉部会にも代表者が参加し意見交換している。市から派遣のあんしん相談員も月1回来訪し一人ひとりの利用者と歓談し何かあれば報告をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしない介護の実践を理解する必要性を感じている。現在もベッド柵を設置し移動拘束が継続している入居者がいるが、その方のケアについても職員や家族と相談していきたい。	玄関は夜間のみ施錠で日中は開錠しており行動制限はしていない。身体・生命に危険を予測できる時には家族に説明し、同意を得たうえでベッド柵などに頼ることはあるが、常に記録し、防止策を職員間で検討している。	

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックと見受けられる場面も少なくなってきたもののゼロではない。尊厳保持の観点からスタッフ全員で支援に取り組む必要を感じている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に日常生活支援事業、生活保護の制度を利用し、入所している利用者が居るので実際の生活を通して、関係者と連携を取りながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営事項説明、重要事項説明、契約の説明に時間をかけて、納得の上契約書にサインをしてもらっている。疑問点があれば理解が得られるまで、答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場でもそれ以外の場であっても、利用者、家族共々意見をいただくことがあり、反映するように努めている。	約半数の利用者は意見や要望を伝えることが出来る。表出が難しい場合には、日々の様子などから汲み取るよう心掛け、選択出来るよう声掛けしながら意見や要望に応じている。家族には、運営推進会議に参加していただいた時や面会時に日頃の様子を伝え、意見や希望を聞きホームの運営やケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小さいながらも組織体としての運営体制づくりに取り組んでいるところであり、職員からの意見や提案は受けることはあるが、組織体としてそれらの意見を検討、討議する機会は、まだ十分ではない。	月1回の定例会、毎朝の申し送り、昼のミニカンファレンス時に意見を聞き、出た意見については職員全員で改善方法を検討し、ケアに活かしている。職員能力評価表で自己評価し、代表者が個々に相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職責に応じて、適材適所になるような職責判断を常に考えている。機会を設けて、介護業務のやりがいやスキルアップについての提案をしている。職場条件も個々の相談に応じて条件整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政実施による研修は勿論、事業所が参加している同業者団体主催による研修にも、職員のスキルに応じて研修を受講してもらえるようシフトを組んだり、介護関連資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者団体の青年部に所属し、交流を深めている。今後、職員も機会があれば積極的交流の機会を考えている。協力関係にある診療所の医師による認知症勉強会に参加している。		

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もない入居者には、職員全体で気にかけて、困ったことや不安を把握し、対応するようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では、些細な事もご家族に報告、相談やお願い事を頼んだりする過程で、自ずと相互理解が芽生えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅支援とホーム内支援では、生活環境が大きく変化するため、本人への面談のうえ、生活や医療の状況の勘案、家族にもよく話しを聞いたうえで、サービス利用の開始についてはサービス開始が現段階が適時なのかどうか判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活は暮らしの場そのものであり、職員にとっては一日のうちの少なからぬ時間を過ごす場を共に過ごすという意味においては、まさに家族のような関係性が持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族、事業所、かかりつけ医それぞれがそれぞれの立場で三人四脚でケアをしていくあり方を常に示し、それぞれの状況に応じて協力しあい、過重負担とならないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者ではあるが、葉書や年賀状、ある程度定期的な外出、訪問の機会を設けて、これまでの人間関係の継続の支援に努めている。	月1回来訪する傾聴ボランティアの方と馴染みの関係を築かれ短歌の会への投稿を継続されている方や毎日曜日礼拝に参加される方などがおり、利用前からの馴染みの関係や習慣を継続できるよう支援している。また、ホームの畑で野菜作りをしている方もおり、畑の隣のお宅の方と馴染みの関係となり、畑に行くことを楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間関係にはいつも注意を払っている。孤立がちなご利用者には、職員の対応のほか、傾聴ボランティアをお願いする等支援をしている。また入居者間で良い関係が築けるような働きかけに努力している。		

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年度は、看取りによるサービス終了者が一人居たが、看取り中、看取り後の本人、家族へのフォローに努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の過ごし方から、洋服の選択や施設内での家事手伝いや畑仕事等、自己実現につながるものをもっと把握できるように、職員全体で考え方を共有して努めていくべきであると考えている。	思いや意向を伝えられる方が半数ほどいる。中々表出が難しい方にも選択していただけるよう声掛けし、出来る限り希望に沿えるよう支援している。地区社協主催の地域の日帰り旅行に毎年交替で3名の利用者が参加し楽しまれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族からこれまでの暮らしを聞き取るようにしている。また、入居後も本人の発言や家族の思い出話を聞いて、本人理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	9名の方それぞれの情報を職員が、必要に応じて本人に確認することで入居者一人ひとりの理解につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の入れ替わりがあったため、職員全体での介護計画を作成することは困難になっている。本人、家族の希望を踏まえ、介護リーダー、看護職、計画作成担当で話し合い介護計画を立てている。また、計画作成担当者だけでなく、介護職員もモニタリングすることで入居者の理解が深まるように努めている。	見直しは基本的に6ヶ月を目安に行っている。職員は利用者を1~2人担当しており、見直しの際には計画作成担当者が申し送り時などに担当職員から意見を聞いている。家族には面会時に声掛けしたり、電話などで希望をお聞きし計画に反映している。心身の状態の変化に応じて随時の計画の見直しも行き、それに合わせたケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を支援経過として記録し、職員と計画作成担当で情報を共有し、介護の実践や介護計画に活かしている。家族には一月ごとに支援の経過を提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームは、入居者の生活そのものである。外出や趣味、また心のケアを含め、既存のサービスを超えて、入居者の生活が豊かになるように対応したいと努力している。		

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源は、現段階では多くを把握できている訳ではないが、地域資源の協働は豊かなサービスのためには不可欠であると考えているので、地域資源の掘り起こしに力を入れていき		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医自身が認知症治療に特化し取り組んでいただいております。ホーム、家族とも良好な連携が取れている。	利用契約時に協力医があることを説明し、希望を聞いている。現在、全利用者が協力医を主治医としており、2週間に1回の往診により受診している。24時間対応の訪問看護ステーションとも契約しており、何時でも相談できる体制が整っている。職員として看護師が勤務しており、日頃から健康管理に努め適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護職員に入居者の状況を伝え相談することで、適切な受診や看護に結び付きやすくなった。また、看護職を通じて、かかりつけ医の訪問看護師とも良好な連携が取れており、適切な看護支援、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、介護職員や介護支援専門員が入院状況の把握や退院に向けての情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所開設5年が過ぎて、六例の看取り(最終は病院を含む。)を行った。しかし、看取りの支援には、職員全体で学ぶべきものが多く、その課題の重要性を感じている。	利用契約時に終末期の対応について説明し、本人と家族に希望を聞いている。24時間対応の訪問看護ステーションとも契約しており、何時でも相談できる体制が整っている。職員として看護師も勤務しており状態の変化に応じて主治医・家族・職員で話し合い、本人や家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。昨年も関係者で意思統一し看取りに取り組んだという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立ち合いの総合訓練を年二回実施している他、消防署による応急処置講習も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に必要な物品の整備や利用方法、避難方法や避難後の行動マニュアルの整備を進めているところである。	年2回消防署立会いの下、夜間想定訓練が行われている。水害については立地的に地区でも安全地帯であるといわれており、あらゆる災害を想定したマニュアルや備蓄品の見直しも行われている。	

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人ひとりの人格の尊重やプライバシー保護」は、サービス提供の基本と考えている。職員全体が理解して対応しているとはいえないが、「入居者の人格の尊重」について、職員間で学んでいきたいと考えている。	利用者を人生の先輩として敬い、誇りを大切にしながら声掛けしている。一人ひとりの意向を聞き、名字・名前に「さん」付けで呼び掛けている。職員が人権の尊重やプライバシー保護などの外部研修に参加した時には報告会を開き、周知を図るとともにケアに活かしている。居室入り口にはそれぞれの暖簾が掛けられ、中が見えないように工夫がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自ら希望を提示することが一番望ましいと考え、本人の発言に耳を傾けている。希望が出ない場合にも、選択肢を提案し自己決定を促すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所も職員も事業所の都合を優先させる日常生活ペースが往々にある。一人ひとりのその日の希望を聞き取り、支援していけるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に洋服等の買い物や差し入れを積極的にお願いしている。家族にお願いしているのは、触れ合いとしての側面を期待している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は準備、調理、片付けの手伝い等にご本人が出来るなりに関与できるよう支援している。普段の会話においても、食べ物のお話をする事で本人の嗜好が掴めるよう努めている。	常食の方が殆どであるが、状態に合わせて小口切りにするなど状態に合わせ完食出来るよう支援している。個々の力量に応じて職員と一緒に下ごしらえ、調理、片づけ、洗い物などをする出番を大切にしている。畑で色々な野菜作りもされており、食卓に色を添えている。おはぎ・ホットケーキ・いらせんべいなど、利用者が職員とともに楽しみながら作ることもある。また、近くの道の駅などで外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜、副菜の盛付量は、体調も考慮し一人ひとりに応じて適切な量で摂取してもらっている。水分量についても同様である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方、見守りの方、一部介助の方それぞれに応じて、声掛けや入れ歯の汚れ、口腔内の汚れのチェックを確認しケアしている。一日の流れの中に口腔体操も取り入れている。		

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄状況に応じて、日常の排泄習慣の観察から不安を取り除く支援をすることで排泄自立を支援している。	布パンツとリハビリパンツの方が半数弱で、オムツ利用者が若干名という状況であるが、個人記録により一人ひとりの状態を把握しており、自立、一部介助、見守りなど、プライバシーを大切にしながら支援している。オムツからハビリパンツになった方もおり、自立に向けできる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便スケジュールを把握し、ご本人にあわせて水分補給や運動を働きかけ、かかりつけ医とも相談しながら、内服薬の他、プルーンやオリゴ糖も使用するなどして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は予めスケジュールはあるが、なるべく個々人の希望やタイミングに合わせるため、入浴順序、スケジュールは柔軟に変更できるようにして支援をしている。	日曜日以外は毎日午前と午後入浴が出来、基本的に週2回入浴が出来るよう支援している。状態により職員が二人で介助する場合もあり、楽しみにしていたできるように取り組んでいる。入浴剤なども使用し温まっていたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の一日の流れはあるが、以前の生活歴を尊重し、休息、睡眠が取れるよう、食事やお茶の時間をずらしたりする等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医自身が認知症状に関する薬に関しては施設天稗法を推奨しており、本人の様子、症状に合わせて本人の症状にあった服薬支援を医師と連携して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での家事手伝い、散歩時のリーダー的役割、談話時のムードメーカー等その人にあった役割を活かせるよう支援を行って笑顔や生きがいを引き出すよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例え玄関の前であっても、外に出られるように努めている。本人が場所や目的が明確になっている場合には、意向に沿った支援を家族と協力を取り支援している。また、地域で旅行イベントにも参加させてもらっている。	地区社協主催の地域の日帰り旅行に毎年交替で3名の方が参加し楽しまれている。初詣、花見、花火大会の見物、紅葉狩りなど、季節を感じていただけるよう四季折々に外出している。利用者からの希望で戸隠におそばを食べに行くなど、出来る限り意向に沿えるよう支援している。	

グループホーム福わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居に際して現金を所持をしないことが原則であるが、現金の所持や買物の機会を本人の希望を踏まえ、家族と相談しながら、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をする機会を支援している。手紙のやり取りについても、葉書や便箋の購入なども含めて支援を実践している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のあるスペースを用意し、一般住宅がそうであるように明るすぎない、過度にバリアフリーでない、季節ごとに花を置く、テレビや会話等の音があり、食堂(居間)に人が寄って入れる環境作りに努めている。	リビングにはちょっと腰かけられるような高さの畳の小上がりがあり、食事も一人ひとりに合わせテーブルと畳に分かれてゆっくりと摂っている。玄関からリビングを抜けると突き当たりが避難口となっており、誰でも迷うことなく避難できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の様子を観察しながら、共用の空間が、感覚的に居心地が良くなっているかを確認している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での過ごし方や過ごす時間に応じて居心地よく過ごせるように本人の要望を聞いていたり、一緒に掃除をするなどして工夫をしている。殆どの利用者が清潔な状態を保つことが希望であるが、馴染みの家具を置きたい入居者には可能な限りで対応している。	入り口の戸の半分それぞれ擦りガラスと透明のガラス部分があり、また、戸を開けても居室が丸見えにならないよう暖簾が掛けられプライバシーに配慮されている。お昼寝の前には職員が居室の暖房の確認を行いゆっくりと休めるように支援がされている。居室には筆筒や連れ合いの遺影など、思い思いの馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害がある利用者には、トイレやフロアが近い居室にするなどの配慮や誘導の声かけもその人に応じた声かけをする配慮などを行っている。		